

News Letter

2024
Summer issue

令和6年8月20日発行

Japan Society for the Sociology of Sport and Physical Education

一般社団法人
日本体育・スポーツ・健康学会 第74回大会
The 74th Conference of the Japan Society of Physical Education, Health and Sport Sciences

地域の創生と共生をはぐくむ
体育・スポーツ・健康科学

2024年
8月29日(木)～8月31日(土)開催
会場: 福岡大学

福岡大学

日本体育社会学会

事務局：〒630-8506

奈良県奈良市北魚屋西町

奈良女子大学生生活環境学部 N120 研究室

石坂 友司 研究室内

E-mail: jimukyoku@jssspe.org

< 目 次 >

日本体育社会学会第2回大会報告	1
学生研究奨励賞受賞者の声	3
日本体育・スポーツ・健康学会第74回 大会スケジュール	4
「年報 体育社会学」編集委員会より	7
事務局より	7
あとがき	12

<日本体育社会学会第2回大会報告>

日本体育社会学会 第2回大会開催 報告

日本体育社会学会第2回大会 実行委員長
彦次 佳 (関西大学人間健康学部)

日本体育社会学会の第2回目となる学会大会が、2024年6月22日(土)・23日(日)、関西大学人間健康学部・堺キャンパスにて開催された。初日となる22日には、一般発表9演題(4セッション)と実行委員会企画シンポジウム、大会2日目には一般発表8演題(4セッション)と研究委員会企画シンポジウムが開催され、合計69名の参加者が一同に会した。生憎の空模様により、2日目に企画していたP.A.体験会は中止となったが、学会大会の中間となる初日最後には情報交換会も開かれ、57名の参加者が親睦と学術的交流を深めた。

初日の実行委員会企画では、「スポーツが人の成長を促す条件—選手育成と大学スポーツ—」というテーマの下、元ガンバ大阪スカウトマン・バリュエンスホールディングス社長室シニアスペシャリストの二宮博氏と、京都先端科学大学の東原文郎氏をお招きし、司会を関西大学・竹内秀一氏に置き、大学でのスポーツ環境が有効に作用するアスリートの主体的条件や環境整備について情報提供を頂いた。特に二宮氏は、三苫薫選手の発言や行動を具体的に紹介し、キャリア形成に対する思考と志向から、大学スポーツ環境を大学生アスリートが有効に活用する方法と、そこから人間的成長を獲得することの重要性を述べ、大学スポーツへの期待と可能性を提示した。一方で東原氏は自身の研究成果から、大学生アスリートが「大学でただ単にスポーツ部に所属する」ことが重要なのではなく「そのスポーツ(クラブ)の活動にどう取り組むか」が重要であることを論じた。さらにそれを実現するための方法として、男子学生アスリートの調整(削減)と女子学生アスリートの増幅による大学スポーツ環境の適正化、そしてこれからの大学スポーツのより好い方向性を提案した。





実行委員会企画シンポジウムの様子

大会 2 日目の研究委員会企画シンポジウムでは、「部活動の休日地域移行の問題点—新自由主義的な政策の行方—」と題して、早稲田大学の中澤篤史氏、青山学院大学の西島央氏、福井・GFI アカデミーの木原靖之氏が登壇、指定討論者として日本女子大学・大沼義彦氏、司会者として中京大学・千葉直樹氏の両名が議論を進行した。パネリストのそれぞれの立場より、これまでの部活動の変遷や部活動の担う福祉的役割、地域移行が進む現場の実態・課題について紹介されたのち、フロアから登壇者の先生方への質問もあり、今後の部活動と地域スポーツの在り方について議論を深める時間を共有した。

2 日間を通し、第 1 回大会のような多くの参加者を集めることは叶いませんでしたが、1 日目から 2 日目最後の研究委員会企画まで参加される会員が多く、学会大会らしい有意義な 2 日間となったのではないかと考えます。これもひとえに、学会事務局の先生方、理事会の先生方、研究委員会の先生方、そして何より会員の皆さまのご協力の賜物です。この場をお借りして、第 2 回大会実行委員会を代表し、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

最後に、2 日間にわたり、関西大学人間健康学部にお越しくださり、ありがとうございました。

＜学生研究奨励賞受賞者の声＞

「学生研究奨励賞」を受賞して

太田 明李（中京大学大学院 スポーツ科学研究科 博士後期課程1年）

発表演題

「Jリーグのアウェイ観戦におけるプル要因：
アウェイ観戦経験の有無に着目して」

6月22日・23日に関西大学堺キャンパスで開催された体育社会学会第2回大会において、「学生研究奨励賞」を受賞しました。まずは、大会実行委員長の彦次佳先生をはじめ、大会の準備や運営に尽力してくださった全ての皆様に深く感謝申し上げます。そして、日頃より丁寧なご指導とご鞭撻を賜っております伊藤央二先生にも、改めて御礼申し上げます。

今回発表させていただいた研究では、スポーツと観光を融合させたスポーツツーリズムのなかでも、近年注目を集めるアウェイツーリズムに着目しました。アウェイツーリズムとは、ホーム&アウェイ方式で開催される試合において、アウェイクラブのファンやサポーターが試合観戦を目的に試合会場となるスタジアムを訪れ、その観戦前後に地域観光を行うスポーツツーリズム行動を指します。特に、本研究ではアウェイ観戦経験の有無によるアウェイ観戦プル要因を検証しました。

研究結果から、アウェイ観戦経験者はスタジアムの話題性やアウェイ訪問地域の魅力に惹きつけられる一方で、アウェイ観戦非経験者は観戦をすることで得られるノベルティやイベント内容を重視していることが明らかとなりました。質疑応答では多くの先生方から様々なご意見をいただくことができ、非常に貴重な機会となりました。今回いただいたご指摘やアドバイスを真摯に受け止め、今後の研究活動に一層励んでまいります。

改めて、「学生研究奨励賞」という名誉ある賞を受賞できたことを大変嬉しく思います。この受賞を励みに、研究者としてさらに成長ができるよう今後も精進してまいります。ありがとうございました。



太田さんと松尾会長

<日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会スケジュール>

1. 大会日程：2024年8月29日（木）～8月31日（土）
2. 開催会場：福岡大学
3. 体育社会学専門領域プログラム
 <8月29日（木）1日目> 会場：AB01
 13:00～14:00 キーノートレクチャー
 14:10～15:20 ワークショップ

 <8月31日（土）3日目> 会場：AB01、A101、814
 9:00～10:00 理事会（AB01）
 10:05～11:22 口頭発表①（AB01・3演題）、口頭発表②（A101・3演題）、口頭発表③（814・3演題）
 11:30～12:47 口頭発表④（AB01・3演題）、口頭発表⑤（A101・3演題）、口頭発表⑥（814・3演題）
 13:30～14:00 総会（AB01）
 14:10～15:27 口頭発表⑦（AB01・3演題）、口頭発表⑧（A101・2演題）
4. キーノートレクチャー
 日時：8月29日（木）13:00～14:00
 会場：AB01
 テーマ：身体活動と社会経済的要因—現状と格差対策へのヒント—
 司会：秋吉 遼子（東海大学）
 演者：鎌田 真光（東京大学）
5. ワークショップ
 日時：8月29日（木）14:10～15:20
 会場：AB01
 テーマ：子どものスポーツ格差について考える
 司会：千葉 直樹（中京大学）
6. 体育社会学専門領域 発表プログラム
 口頭発表① 8月31日（土）10:05～11:22（会場AB01）
 座長：東原 文郎（京都先端科学大学）
 10:05～10:30
 野仲 賢勝（順天堂大学大学院）
 プロスポーツクラブの指導に関わるスタッフの就業に関する研究—Jリーグを事例として—
 10:31～10:56
 上代 圭子（東京国際大学）
 続プロスポーツクラブスタッフのキャリアに関する研究—辞めた若者側への着目—
 10:57～11:22
 下窪 拓也（順天堂大学）
 運動・スポーツ実施状況と社会経済的地位の関連—地位内分散の異質性に注目して—

 口頭発表② 8月31日（土）10:05～11:22（会場A101）
 座長：星野 映（早稲田大学）
 10:05～10:30
 吉田 明子（日本大学）
 全日本小中学生ダンスコンクールに関する研究（5）—アンケートという技法の実践—

10:31 ~ 10:56

八木 一弥 (立教大学)

明治期における読売新聞社の動向から見た野球害毒論争に関する一考察—東京朝日新聞社、東京日日新聞社との関係に着目して—

10:57 ~ 11:22

加藤 朋之 (山梨大学)

我が国のスポーツ伝播の場に参加したアクターたち—明治36年第5回内国勸業博覧会—

口頭発表③ 8月31日(土) 10:05 ~ 11:22 (会場814)

座長: 渡 正 (順天堂大学)

10:05 ~ 10:30

塩崎 世佳 (北海道大学大学院教育学院)

障害者の弓道実践における〈できなさ〉の諸相—「型」をめぐる経験に着目して—

10:31 ~ 10:56

中村 真博 (常葉大学教育学部)

日本の車いすバスケットボールチームにおける障害者と健常者のコミュニケーションをめぐる規範に関する研究—相互の「イジリ」に着目して—

10:57 ~ 11:22

高峰 修 (明治大学)

体育・スポーツ・健康科学分野の研究における“性”の扱われ方

口頭発表④ 8月31日(土) 11:30 ~ 12:47 (会場AB01)

座長: 上代 圭子 (東京国際大学)

11:30 ~ 11:55

中澤 篤史 (早稲田大学スポーツ科学学術院)

アメリカの高校運動部活動の実態に関する調査研究(1)—カリフォルニア州でのフィールドワークをもとに—

11:56 ~ 12:21

束原 文郎 (京都先端科学大学)

アメリカの高校運動部活動の実態に関する調査研究(2)—ミシガン州でのフィールドワークをもとに—

12:22 ~ 12:47

須藤 巖彬 (早稲田大学大学院)

集団競技の運動部活動における部員の役割分化とその機能的意味—レギュラー選手・控え選手・補欠部員の三層分析—

口頭発表⑤ 8月31日(土) 11:30 ~ 12:47 (会場A101)

座長: 水上 博司 (日本大学)

11:30 ~ 11:55

清水 一巳 (敬愛短期大学)

保育施設における園庭改良と遊びの創出との関係

11:56 ~ 12:21

忠鉢 信一

公共的空間のスポーツ利用が生む軋轢の実態と公共性の萌芽—日本スカイランニング協会公認レース「太郎山登山競走」におけるコミュニティ・アクションリサーチの成果をもとに—

12:22 ~ 12:47

菅原 大志 (新潟医療福祉大学)

混住化社会におけるローカルスポーツの創出と農地管理

口頭発表⑥ 8月31日(土) 11:30～12:47 (会場 814)

座長：高尾 将幸 (東海大学)

11:30～11:55

田中 安津子 (九州大学)

コロナ禍以降の日本人の身体観の変容—雑誌 Tarzan の分析を中心に—

11:56～12:21

高田 侑子 (順天堂大学スポーツ健康科学研究科)

審美的職業の身体の捉えられ方—見る/見られる身体に関する先行研究の検討から—

12:22～12:47

星野 映 (早稲田大学)

中学校の運動部員数からみる柔道の普及と強化

口頭発表⑦ 8月31日(土) 14:10～15:27 (会場 AB01)

座長：千葉 直樹 (中京大学)

14:10～14:35

Lin Wan Ting (National Taiwan Normal University)

Sports Tourism and Regional Revitalization under the Multi-layered Ritual—Study of Mt. Gassan, Japan and Mt. Matcha, Taiwan—

14:36～15:01

Wang Xuguang (Tianjin university of sports)

Reflections on the Construction of National Fitness Volunteer Service System in China—Analysis centered on the social sports instructor workforce—

15:02～15:27

Qiu Xue (China Sport Science Society)

Sport in the Community of Shared Future for Mankind

口頭発表⑧ 8月31日(土) 14:10～15:01 (会場 A101)

原 祐一 (岡山大学)

14:10～14:35

西村 光太郎 (順天堂大学)

体育授業の相互行為分析—席順のない体育授業はいかにして達成されるか—

14:36～15:01

小石川 聖 (早稲田大学スポーツ科学研究科)

学校体育におけるメディア利用に関する研究—1960年代から70年代のVTRという技術に着目して—

7. 発表の形式について

- ・今大会における本領域の発表数は、口頭発表 23 演題です。
- ・口頭発表は1演題あたり 25 分間 (発表 15 分間、質疑応答 10 分間) です。
- ・詳細につきましては第 74 回大会プログラムをご参照ください。

<「年報 体育社会学」 第6号 (2025) の発刊について – 「年報 体育社会学」編集委員会–>

「年報 体育社会学」編集委員会では、現在第6号 (2025年4月刊行) の投稿論文の原稿を受け付けております。投稿された論文が2025 (令和7) 年1月末までに論文審査を終えて採択されれば第6号への掲載となりますが、1月末を過ぎても採択後には翌年の機関誌の刊行 (第7号) を待たずに J-stage へ早期公開し、可能な限り投稿者の研究成果を国内外の研究者に広く共有してもらえよう編集体制を整えております。投稿先を検討中という会員の皆様には、是非とも「年報 体育社会学」へのご投稿を検討ください。なお、投稿には締め切りはございません。年間を通じて投稿を受け付けておりますので、何卒よろしく願いいたします。詳細は、「投稿に関わる諸規程等一覧」をご覧ください。

https://jssspe.org/wp-content/uploads/annualreport_regulations_20230625.pdf

「年報 体育社会学」 J-STAGE はこちらからご覧いただけます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/arspes/-char/ja>

<事務局より>

1. 会員動向：日本体育社会学会 (体育社会学専門領域) の会員数は、2024年7月25日現在360名 (名誉会員22名) です。
2. 会員情報変更：日本体育社会学会 (本学会) の会員は日本体育・スポーツ・健康学会 (本会) 体育社会学専門領域の会員を兼ねるため、名簿管理は本会が行っております。勤務先の住所・所属などの変更があった場合は本会のホームページにある「会員マイページ」より変更手続きを行ってください。名簿反映には時間がかかりますので、別途本学会事務局にもメールでご連絡いただくと助かります。
3. 会員への連絡：会員への連絡はホームページとメールで行います。本会名簿に登録のメールアドレスにてご案内していますが、メールが届かない方が数名おられますので更新をお願いいたします。また、メールが届いていない方がおられましたら、事務局までお知らせください。事務局のメールアドレスは以下の通りです。

事務局メールアドレス jimukyoku@jssspe.org

4. 2024年6月23日 (日) に行われた第1回総会で、新会員制度の創設が議決されました。会員は正会員、学生会員、名誉会員からなること、新制度のための会則、諸規定の整備を理事会で進めて行き、8月31日 (土) に日本体育・スポーツ・健康学会大会で行われる第2回総会で審議することが決まっております。ご参加をお願いいたします。

○理事会議事録

2024年度 日本体育社会学会 第1回理事会 議事録

日時：2024年4月17日 (水) ~4月18日 (木)

場所：メール審議

議事録：石坂事務局長

「日本体育社会学会第2回大会要項（第2報）」が大会実行委員会から提案され、審議の結果、以後の修正を実行委員会と執行部に一任することで承認された。

以上

2024年度 日本体育社会学会 第2回理事会 議事録

日時：2024年5月3日（金）～5月6日（月）

場所：メール審議

議事録：石坂事務局長

学会大会のゆうちょ口座開設に伴い、「日本体育社会学会大会実行委員会運営細則」の整備が必要になったことから、事務局より細則案が示され、審議の結果承認された。

以上

2024年度 日本体育社会学会 第3回理事会 議事録

期 日：2024年6月22日（土）11時～12時

場 所：関西大学堺キャンパス／zoom オンライン

出席者（対面）：松尾哲矢（会長）、高峰修（理事長）

秋吉遼子、稲葉慎太郎、大沼義彦、甲斐健人、北村尚浩、笹生心太、白石翔、高橋豪仁、千葉直樹、中澤篤史、藤井雅人、前田博子、依田充代
（以上理事、敬称略、五十音順）

有山篤利、宮本幸子（以上監事、敬称略、五十音順）

石坂友司（事務局長）、水上博司（事務局次長）（敬称略）

出席者（オンライン）：神野賢治、高尾将幸、松田恵示（以上理事、敬称略、五十音順）

欠席者：浅沼道成、伊藤克広、岡安功、清水諭、長ヶ原誠、彦次佳
（以上理事、敬称略、五十音順）

司会：高峰理事長

議事録：石坂事務局長

議事に先立ち、松尾会長より挨拶がなされた。

<報告事項>

1. 委員会報告

2023年度第8回理事会で承認された2024年度活動計画について、各委員会からの追加報告はなされなかった。

2. 日本体育・スポーツ・健康学会のスケジュールについて

第74回日本体育・スポーツ・健康学会のスケジュールが確認され、専門領域の一般発表は23演題8セッションで行われることが高峰理事長より報告された。

3. 国際交流に向けたワーキンググループ報告

2023年度第8回理事会で決定された国際交流に向けたワーキンググループが組織され、動き出したことが高峰理事長より報告された。

4. その他

特になし。

<審議事項>

1. 2023年度決算報告

石坂事務局長より、2023年度決算報告について説明があり、第1回大会からの返金もあり、44,526円の黒字（次年度への繰越金は3,000,597円）となったことが報告された。特に異議などなく承認された。続けて有山監

事、宮本監事より監査報告がなされた。

2. 2024 年度補正予算（案）

石坂事務局長より、2024 年度補正予算案について説明がなされた。2023 年度第 8 回理事会で審議決定された 2024 年度予算案からの追加事項として、理事選挙を 2024 年度に行うための予算（10 万円）、ホームページの保守・管理を心力舎さんに依頼するための予算（11,000 円）、年報制作費用の追加分を含めた予算措置（80 万円に増額）が提案され、特に異議などなく承認された。

3. 新会員制度創設のための規程改定（案）について

本議事はすべての議事の最後に審議された。2023 年度第 8 回理事会で審議決定された新会員制度の導入にあたって、会則、諸規程（役員選出内規、選挙管理委員選出規程、日本体育社会学会の会長および理事選挙について）の見直しが必要なることから、石坂事務局長から改訂案が示され、意見交換が行われた。

大沼理事より、役員選出内規改定案に示された会長および理事選挙の選挙権について、日本体育・スポーツ・健康学会の会員／非会員でどのような違いが生じるのかについての質問がなされた。高峰理事長より、今回の改訂では日本体育・スポーツ・健康学会の非会員も選挙権、被選挙権をもつことになることが説明された。加えて、仮に非会員が理事に当選した場合（会長は日本体育・スポーツ・健康学会の専門領域代表を兼ねるため非会員からは選出されない。また、日本体育・スポーツ・健康学会の代議員、理事にも選出されない）、日本体育・スポーツ・健康学会時に行われる理事会、研究委員会活動などに参加する必要があるが生じること、その際の大会参加費は支払ってもらう必要があることが説明された。

また、大沼理事より、「役員選出内規」に書き加えられた会長推薦理事の文言にある「(会員の) 専攻分野」という表現は他の表現に置き換えられないかという質問がなされた。石坂事務局長より、他学会の規程を参考にして作成したが、良い表現があれば変更可能との回答がなされた。

甲斐理事より、会則で新設される会員区分（正会員、学生会員、名誉会員）ごとの選挙権についての質問がなされた。高峰理事長より、現在の案では正会員、名誉会員が選挙権を有していて、被選挙権は正会員のみにあることが説明された。前田理事から名誉会員の推薦システムについて質問があり、石坂事務局長より、これまで専門領域の名誉会員は日本体育・スポーツ・健康学会の名誉会員と連動しており、現在 22 名の名誉会員がおられることが説明された。

会則、諸規定の審議は継続して行い、8 月の日本体育・スポーツ・健康学会開催時に行われる理事会で最終決定を経て、同総会で承認を得るスケジュールが高峰理事長より提案され、異議などなく承認された。また、追加で「学生研究奨励賞 選考内規」の文言の修正が提案され、承認された。

4. 大会実行委員会運営細則の改訂について

2024 年度第 2 回理事会で承認された「日本体育社会学会大会実行委員会運営細則」について、その後、ゆうちょ口座の開設に伴い会計担当の住所などの記載が必要になったことから、事務局から改訂案が示され、異議などなく承認された。

5. 学生研究奨励賞の選考について

甲斐学生研究奨励賞選考委員長より、2024 年度学生研究奨励賞の選考結果（選考論文数 3 編）が報告され、異議などなく承認された。

6. 学会賞選考委員候補者推薦委員会の委員選任について

学会賞選考委員候補者推薦委員会の委員選任について、今理事会で追加承認をする予定だったが、すでに 2023 年度第 1 回総会で審議決定されていたため、7 名を委員として選任することが高峰理事長から報告された。また、石坂事務局長より、今後の学会賞選考スケジュールについての説明がなされた。

7. その他 特になし

次回定例理事会：2024年8月31日（土）9時から、第74回日本体育・スポーツ・健康学会大会に合わせて開催予定。

以上

2024年度 日本体育社会学会 第1回総会 議事録

日時：2024年6月23日（日）13:00～14:00

場所：関西大学堺キャンパス SA501 教室

出席者数：42名

司会：高峰理事長

議事録：石坂事務局長

議事に先立ち、松尾会長より挨拶がなされた。

<議題>

1. 議長、議事録署名人の選出

会員から立候補がなかったため、事務局提案により、工藤保子会員が議長に選出された。

また、議事録署名人は会員から立候補がなかったため、事務局提案により、秋吉遼子会員、原祐一会員が選出された。

2. 2023年度活動報告

理事長から、2023年度の各委員会活動報告について、2023年度第2回総会以降の活動を中心に報告がなされた。異議などなく、承認可決された。

3. 2023年度第1回大会決算報告

事務局長より2023年度第1回大会決算について報告がなされた。続いて有山篤利監事より、会計監査の結果、会計は適切に処理されていることが報告された。異議などなく、承認可決された。

4. 2023年度決算報告

事務局長より2023年度決算について報告がなされた。続いて有山監事より、会計監査の結果、会計は適切に処理されていることが報告された。異議などなく、承認可決された。

5. 2024年度活動計画（案）

各委員会より2024年度活動計画について提案がなされた。また、国際交流のあり方を検討するワーキンググループが理事会で組織されたことを受け、石澤伸弘事務局次長より今後の進め方について説明がなされた。異議などなく、承認可決された。

6. 2024年度予算（案）

事務局長より2024年度予算案について提案がなされた。2023年度第8回理事会で予算案を審議承認したが、追加経費の支出が発生したため、2024年度第3回理事会において補正予算案が審議承認されたことが説明された。異議などなく、承認可決された。

7. 第3回学会大会開催校の決定について

理事長より、第3回大会の開催校を東北大学にする提案が示された。異議などなく、承認可決された。その後、主幹校となる甲斐健人会員より挨拶がなされた。

8. 新会員制度創設について

理事長より、日本体育・スポーツ・健康学会の会員以外を日本体育社会学会の会員とすることができる新会員制度の創設について説明がなされた。会員は正会員、学生会員、名誉会員からなること、新制度のための会則、諸規定の整備を理事会で進めて行き、第2回総会で審議を行うことが提案された。工藤座長より具体的な検討はどこで進めていくのかという質問があり、理事長より、三役、理事会を中心に進めていくという回答がなされた。

以上の新会員制度の創設を進めて行くことについて、異議などなく、承認可決された。

9. その他

特になし。

〈報告〉

1. 諸規程の改訂について

事務局長より、理事会で審議決定された 1) 日本体育社会学会賞 選考規程（改訂）、2) 日本体育社会学会賞の推薦および選考に係わる申し合わせ（改訂）、3) 大会実行委員会運営細則（新設）について説明がなされた。

2. 学会賞について

事務局長より、学会賞の選考スケジュール、並びに選考委員を選出するための選考委員候補者推薦委員の確定がなされたことが報告された。

3. 第74回日本体育・スポーツ・健康学会について

事務局長より、第74回日本体育・スポーツ・健康学会のスケジュールについて報告がなされた。

4. 学生研究奨励賞選考結果発表

甲斐学生研究奨励賞選考委員長より、学生研究奨励賞として、太田明李会員（中京大学大学院）による「Jリーグのアウェイ観戦におけるプル要因：アウェイ観戦経験の有無に着目して」が選考されたことが報告された。

5. その他

1) 理事長より、今大会の参加者が68名となったことが報告された。

2) 石澤事務局次長より、日本体育・スポーツ・健康学会で行われる専門領域一般発表について、例年通り抄録集を作成すること、そのための原稿締め切りを7月末に設定したことが報告された。

議長より、閉会の挨拶がなされた。

以上

議事録署名人

秋吉遼子

議事録署名人

原 祐一

＜あとがき＞

News Letter 2024 Summer Issue をお送りいたします。猛暑日が続く中、今年はオリンピック・パラリンピックイヤーということで例年以上に暑い夏になっています。パリとは7時間の時差があり、寝不足の方も多かったと思います。8月28日からはパラリンピック開催となり、寝不足はもう少し続きそうです。

6月には関西大学を会場に日本体育社会学会第2回大会が開催され、今号にはその様子を報告いただいております。どうぞご覧ください。

現代社会ではスポーツに対して多方面からさまざまな期待が寄せられ、それがトップアスリートにとって計り知れないプレッシャーになっています。今大会にはそうしたプレッシャーを和らげ心のケアをする「マインドゾーン」が設置されました。また、近年の国際大会には「ウェルフェアオフィサー（心の専門家）」が同行しており、選手にとって大会期間中の色々な不安や緊張を相談する「サードプレイス」になっていると聞きます。サードプレイスは、オフィシャルでもプライベートでもなく、物理的にも精神的にも良い塩梅で離れている場所ですが、上記のようなことを見聞するとスポーツにおいては「スポーツの外（スポーツから離れている状況）」だけではなく「スポーツの中（スポーツに取り組んでいる状況）」（荒井貞光先生に倣い）にもそういった対応が必要になってきているのだなと感じるところです。

8月29日～31日にかけて福岡大学において日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会が開催されます。テーマは「地域の創生と共生をはぐくむ体育・スポーツ・健康科学」です。中学校部活動の地域実施が本格化する中でスポーツと地域との関わりは一層増ってきており、非常に重要なテーマになってきています。今大会を通じて新たな知が生まれることが期待されます。

今年の夏はまだまだ暑い日が続きそうです。皆さまもどうぞ自愛ください。

(伊藤克広)